

その時、私は

海上アクセス株式会社

池 辺 賢 一 郎

「グラリ」で目が覚め、「ガッターン」で飛び起き、「ユラーリユラーリ」に足を踏んばった。

その時、私は、ポートピアホテルの地上18階の一室に居た。私は何が起こったのか一生懸命頭を起動させるべく焦っていた。辺りを見渡すと、テレビ、テーブル、椅子、洗面用具等が散乱し、「ギイギイ」という建物の音と共に背高の電気スタンドがゴロゴロと揺れていた。

非常灯の薄明かりの中、私はホテルの建物が折れるのではないかと歯を食いしばり両足に更に力を入れた。揺れが収まったところで急いでカーテンを開けた。外はまだ暗闇の中、ガラスに私のダラリとした浴衣姿が映り静寂感が満ちていた。

「地震だ」と心身に言い聞かせ、大急ぎで身支度を整えた。そして、我が家へ電話を回した。「大丈夫か」と問い掛けると、「大丈夫」と言う妻の声が返って来た。「ヨシ!」という安堵感とともに私のいる場所から一刻も早く離れるべく部屋を飛び出した。

一瞬、方向を見失う様な気がした。非常階段のサインを捜し求めた。「アッタ!」走って出口に向かいドアを押し開けた。そこには、寝間着姿の人達が不安化な顔で恐る恐るコンクリートの階段を降りていた。私もその列に加わり地上へ着いた。グランドフロアーに徐々に人々が集まり放送も流れ、ボソボソと話し声も増してきた。

何時か時計も見っていない。ここに居ても仕方がない。会社は大丈夫かと私はホテルの外へ出た。まだ暗く、寒い冷気で身が縮まった。何故か水の流れる音が聞こえて来る。「ザーッ」という音を飲み込む排水口を避けながら、ゆっくりと歩き出す。ところどころのマウンドと浅瀬を見つけながら、やっと道路の中央分離帯に渡り着いた。靴もズボンの裾もドロドロである。しばらく歩いて遊園地横の大きな交差点にたどり着いた。そこから先は、大きな溜まりが出来上がりストップである。夜が白み始めていた。灰色の空と元気のない朝。私はポツンと道路の中央に立って明るくなるのを待った。

向こうから、自転車やってくる人影が見えた。「オーイ」と大声を掛ける。「課長ですか」と聞き慣れた若い声が返って来た。メンテチームの一人が私を迎えに来てくれたのだ。背中に負ってもらい対岸に渡る。「燃料の流出は無かったか」と問うと「大丈夫です」と力強い声が返って来た。自転車の後に乗る、メンテ工場に着いた。建屋が大きく傾いてヒビが入っている。岸壁へ出る。まったく変わり果て、破壊された無残な姿が目の前に拡がっていた。気を引き締め、当直のメンテ長より全員の無事と被害状況の報告を受ける。燃料設備の停止と再度の確認を指示し別棟の事務所に向かう。まだ時々余震がある。3階の事務所は、停電の下、辺り狭しと全てが転がり手が着けられない状態であ

った。その内一人二人と仲間がやって来た。ポンツーンに係留されているJ/F（ジェットfoil）へ乗り込みテレビに見入る。アナウンサーの興奮した声とヘリの騒音の中、阪神高速道路の横倒しや火災の煙が映し出されて来る。「コリャ世の中が大変ダ」とおもわず声が出る。遠くの空には数機のヘリと煙の上がっているのが確認できた。

その内、数人のお客がドロドロの靴でやって来た。「是非、どうしても関空へ」と悲壮な声と、脅迫まがいの態度で迫って来る。会社の機能の再開である。幸いにJ/Fも軽傷で、残油がある。空腹感も湧いて来た。片道の乗客と食料を求め、一隻を飛び出させる。一段落した所で、再度燃料設備を点検する。地下タンクは残油量の変化もなく正常の様である。しかし、燃料ラインはむき出しとなり、切断、曲損している所がある。ポンプ室は幸いに外傷なし。ポンツーン上のスタンドも正常の様である。翌日、まさかこんな形でこんなに早く使用するとは夢にも思わなかった非常用発電機で燃料ポンプを回し、通油確認と詳細検査を施行する事にした。

次から次にやって来るお客に2往復運航するのが限度であった。夕刻より家路を急いだ。といっても手段は足である。ドロ道のポートアイランド、傾いたビル街の三宮を横目で見ながら東へ向かう。騒音と火災の残る町並みに人々があふれている。益々不安が広がって来る。3時間、やっと家にたどり着く。室内はガラクタと化し足の踏み場もない。混乱と散乱の中、ローソクの灯火の下、家族の元気な顔が私を待っていた。

その後、通常化した不便の中、運航の生命の水というべき燃料が、タンクローリーにて毎日大渋滞の中、時々パトカーに先導してもらい地下タンクに補給された。海上運送に誇りを持ちながら忙しい日々が続いた。

あれから、4ヵ月、未だ爪跡は癒されないままであるが、生命の水は途切れる事なく補給され続けています。あの地震に耐えた燃料設備と昼夜走り続けたタンクローリーに感謝しつつ、J/Fは今日も元気に飛び立っています。

整備されつつある岸壁とジェットfoil

